

評価実施年度	令和 7 年度	学校名	大分県立 日田三隈 高等学校	
学校教育目標	社会の変化に対応できる力を育成する教育活動を通して、自立、実践、信頼を体現できる人間を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて良い。 ・学校教育目標、重点目標、目指す生徒像と育成する力が関連付けられており、教育活動に反映されている。 ・学校の魅力化向上のため、管理職と分掌主任が協議を重ねて学校改革を進めている点は大いに評価できる。 ・校長のリーダーシップの下、ミドルリーダーを中心に教育活動の展開を行っており、生徒の学びの深化が期待できる。 ・全教職員が一丸となって、自分ごととして学校の課題解決に向けた取組を行っている点が素晴らしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標の達成のため、重点目標のさらなる具体化を図り、各教育活動への一層の落とし込みと検証サイクルの充実にも努める。 ・ミドルリーダーの育成と役割の明確化を進め、組織的な学校運営体制のさらなる強化を図る。 ・教育活動の成果や課題を可視化し、全教職員で共有することで、持続的な学校改善と魅力化の推進につなげる。
	P D C A サイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなど P D C A サイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて良い。 ・学校評価実施計画では、学校経営ビジョンに沿った重点目標や達成指標が示されている。 ・前回の指摘事項(授業改善や安全体制の確立に向けた校内研修実施)について、対応した点は評価できる。 ・学校評価に関する進捗状況を可視化して全教職員で共有できるガンチャート作成し、活用している点も評価できる。 ・いじめアンケートの具体的な質問項目や回答状況の数値化も行い、全教職員で把握できる工夫をするとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組指標および達成指標の精度をさらに高め、数値化・可視化を進めることで、評価・検証の実効性向上を図る。 ・ガンチャート等を活用した進捗管理を一層充実させ、PDCAサイクルを迅速かつ確実に回す体制を強化する。 ・いじめ対応や安全体制に関する情報共有を徹底し、問題発生時に迅速に組織的対応ができる体制のさらなる充実を図る。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて良い。 ・学校の特色ある教育活動が伝わるよう、中学校と連携した教育活動が行われ、学校の魅力発信ができています。 ・教育活動の質の高さを全県の中学生や保護者、地域に伝えるような工夫がなされることが期待される。 ・「日田未来学」の取組が、地域を学び、地域に貢献するモチベーションとなっていることは評価できる。 ・ホームページやSNSでの情報発信なども、わかりやすいものになっている。 ・地域の課題解決と生徒の成長を目指し、ボランティア活動単位認定の制度化実現が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特色ある教育活動について、ホームページやSNS等を活用し、対象(中学生・保護者・地域)に応じた効果的な情報発信の充実を図る。 ・生徒・保護者アンケート等を通じて満足度やニーズを継続的に把握し、教育活動の改善や魅力向上に反映させる。 ・「日田未来学」やボランティア活動の制度化を進め、地域との連携を一層深化させるとともに、生徒の主体的な社会参画を促進する。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ I C T を活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・指導教諭のリーダーシップの下、教科の枠を超えた授業改善がなされている点は大いに評価できる。 ・全教科で「日田未来学」と関連させた単元を展開する等、実生活と各教科の内容をつなぐ取組が評価できる。 ・授業に対する生徒の満足度は高く、教員による生徒への学びのきめ細やかなサポートが功を奏している。 ・若手教員の授業研究を通じて中堅教員やベテラン教員の授業改善に向けた本気の取組を期待する。 ・生徒の興味・関心を喚起し、学びが活性化・深化されるような発問を研究することが望まれる。 ・生徒の自由な科目選択と、学校運営の効率化を両立できるよう、今後の見直しが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの一層の実現に向け、発問や言語活動の質を高める授業改善を組織的に推進する。 ・若手教員の授業研究を核とした校内研修を充実させ、全教員の授業力向上と実践の共有を図る。 ・進路達成のための進学力、就職力を高めることができる教育課程と、学校運営の効率化の両立に向け、カリキュラムの見直しと改善を進める。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・良い。 ・生徒ヒアリングでは、生徒同士の間関係が良好であり学校生活が安心なものであるという声が多く寄せられた。 ・いじめ事案では、改善に向けて取り組もうとしている姿勢が評価できる。 ・MikumaPASsystemの一貫として、いじめ防止のための道德教育プログラムの開発・実施が求められる。 ・学校の教育活動(人権教育、人間関係づくりプログラム等)がいじめ防止につながるかの検証が必要である。 ・いじめは絶対に許さないという一貫した力強い姿勢を具体的に示し続けることが望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な面談やアンケートの充実を図り、生徒一人一人の状況把握と早期対応の体制を一層強化する。 ・「いじめは絶対に許さない」という方針の下、人権教育や道德教育プログラムを体系的に整備し、未然防止の取組を充実させる。 ・いじめ・不登校対策に関する取組の効果を検証・改善するPDCAサイクルを確立し、組織的な対応力の向上を図る。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的な取組が行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて良い。 ・さすまたの購入や警察と連携した防犯安全職員研修により教職員の危機管理意識の向上が実現できていた。 ・防犯安全職員研修を定期的の実施することが望まれる。 ・夏季の日田の生徒の健康を守る意味でも、冷房設置の要望を続け、体育館や教室への設置実現を期待する。 ・校門から校舎までの歩道の狭さや舗装の状態について、確認の上改善が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯・防災に関する研修や訓練を計画的・継続的に実施し、教職員・生徒の危機対応能力のさらなる向上を図る。 ・施設設備の安全点検を定期的に行うとともに、通学路や校内環境の改善に向けた関係機関との連携を推進する。 ・熱中症対策を含む健康・安全面の環境整備(空調設備等)の充実に向け、計画的な整備と要望活動を継続する。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、I C T の効果的な活用によって業務改善が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校としての働き方改革は具体的に行われている。 ・日田三隈の教職員は魅力あるプログラムに生き生きと取り組んでおり、働き甲斐を持って勤務している。 ・特色ある教育活動の更なる充実に伴い、業務負担が懸念されるが負担超過とならないよう工夫が求められる。 ・年休の取得は、個人差があるため定期的に分析し、取得が少ない教職員への具体的な対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の充実と業務負担の適正化の両立に向け、業務の精選・平準化と分掌間の役割分担の見直しを進める。 ・年休取得状況の定期的な分析を行い、取得が少ない教職員への個別支援や組織的な改善策を講じる。 ・ICTの活用や会議・校務の効率化を一層推進し、生徒と向き合う時間の確保につなげる。
	学校課題の解決に向けた取組等	○DC講座、日田未来学の開放	<ul style="list-style-type: none"> ・DC講座や日田未来学に、生徒はイキイキワクワクとした様子で取り組んでおり、大いに評価できる。 ・日田三隈高校の学びを保護者、中学校教員、中学生等に開放し「地域の学びの拠点」となることを期待する。 ・日田三隈高校は、日田地域でのリカレント教育、生涯学習の拠点となる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DC講座や日田未来学の成果を体系的に整理・発信し、保護者・中学生・地域への理解と共感の拡大を図る。 ・地域や関係機関との連携をさらに深化させ、「地域の学びの拠点」としての機能強化を推進し、地域に開かれた新たな学びの機会を創出する。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標、重点目標、目指す生徒像と9つの力のルーブリックが、進学や就職だけでなく、社会の変化への対応力や地域に貢献しようとする態度・力の育成を見据えたものとなっており、教育活動に対する生徒の満足度が高い点は高く評価できる。 ・校長のレスポンスな学校経営の下、全教職員が学校の改善に向けた取組を行っていることは評価できる。 ・学校内の生徒、中学校、地域のニーズをいち早く捉え、学校の取組に即反映していることも評価できる。 ・地域と連携した取組により、他校との差別化・魅力化が図られており、この取組が地域社会に根付いていくことを期待したい。 ・MikumaPASsystemを基盤として実践される学校の教育活動の質は高いので、その質に伴う魅力が日田地域に限らず、全県の中学生、保護者、地域に伝わるような工夫がなされることを期待したい。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標と「9つの力」のルーブリックの利用度を高め、教育活動と一層の連動と成果の可視化を進める。 ・MIKUMA PAS Systemを基盤とした実践の質を高めるとともに、取組の意義や成果を戦略的に発信することで、県内外における本校の魅力と認知の向上を図る。 ・中学校・保護者・地域のニーズを継続的に把握し、迅速かつ柔軟に教育活動へ反映する仕組みのさらなる強化を図る。 ・日田未来学やDC講座を中核とした地域連携の取組については、関係機関との協働を一層深化させ、「地域の学びの拠点」としての機能高めるとともに、地域に貢献する人材の育成に努める。 ・教育活動の充実と働き方改革の両立を図り、教職員が持続的に高いパフォーマンスを発揮できる組織体制の構築を進める。 			